

虚ろな花に抱かれて

jozo

虚ろな黒の中に淡い瞳の光を見た。男は闇の中で寝ていた。  
闇に植民地支配されて、その島は花卉に搾取され続けていた。  
男は花に抱かれている。顔は皺々としていた。ただ花の愛が空間に充満して、むっとするような暑さだ。

怯えきったうさぎが、片隅で穴を掘っていく、穴を掘りつづければ、どこか、島の外に行けると思ったのだろうか。土を掻き出し、掻き出し。  
赤い目はどこかを指してじっと止まっていた。

鳥が花の蜜を吸う。もう、1時間はずっと吸い続けているだろう。  
天に伸びた大きな、大きな花。その上に鳥はいた。  
鳥は王だ。闇を統べ、花に侍られ、世界へ遠征する。